# 譲渡公営住宅元荒居荘
# 土壌汚染詳細調査業務

## 報告書

2024年3月

**株式会社環境総合リサーチ**

土壌汚染対策法による指定調査機関

指定番号　2003-8-2016

| 技術管理者 | 照査技術者 | サイト管理者 |
| --- | --- | --- |
| 田中 | 岡橋 | 長谷 |

# 目　次

## 1. 目的

譲渡公営住宅元荒居荘内の住宅の跡地のうち、かつて印刷所が営まれていた土地で土壌汚染対策法の手法にしたがった土壌汚染状況調査を自主的に行ったところ、調査した2単位区画とも表層土壌が基準不適合という結果が得られた。

今回、深度方向の汚染範囲の確定、ならびに、地下水汚染の有無を確認することを目的として詳細調査（ボーリング調査、観測井設置、地下水調査）を行った。

## 2. 調査概要

### 2.1 対象地

対象地の地番等は以下のとおりである。

【地　　番】愛知県岡崎市井田町字荒居23番6の一部
【面　　積】77 ㎡ (岡崎市より受領の対象地範囲の対象地の寸法：7m×11mより算出)

対象地案内図を、図2.1-1に示す。

### 2.2 調査期間

| | | | |
|---|---|---|---|
| ボーリング及び土壌試料採取 | ：2024年2月27日 | | |
| 観測井設置 | ：2024年2月27日 | | |
| 地下水試料採取 | ：2024年2月28日 | | |
| 土壌試料分析 | ：2024年2月27日 | ～ | 3月7日 |
| 地下水試料分析 | ：2024年2月28日 | ～ | 3月6日 |

### 2.3 調査機関

受注者：株式会社環境総合リサーチ
（環境大臣指定調査機関　指定番号　2003-8-2016）
技術管理者　　田中　健　（技術管理者証交付番号　第0002017号）
照査技術者　　岡橋　望　（技術管理者証交付番号　第0000472号）
サイト管理者　佐藤　健博（技術管理者証交付番号　第0000371号）

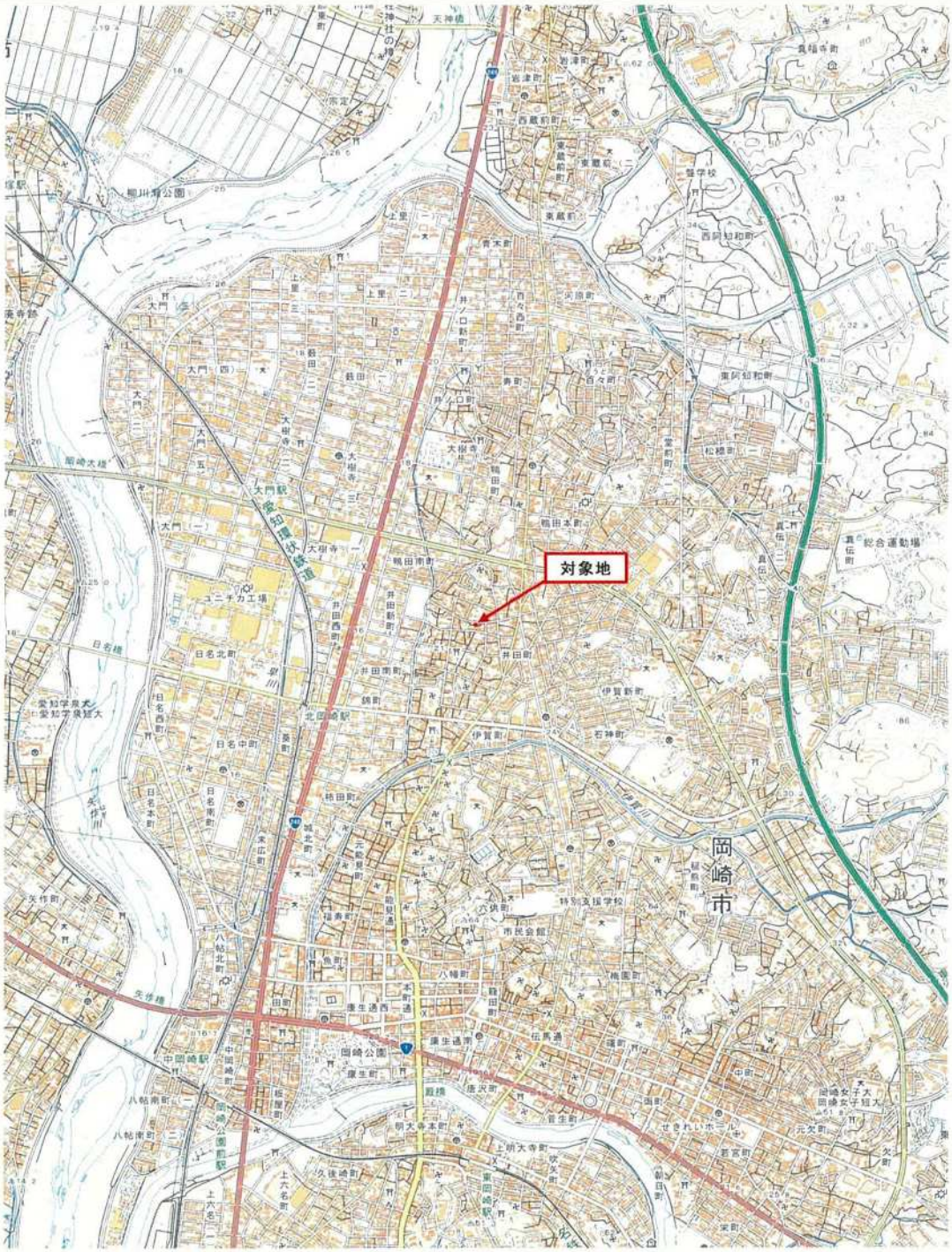
なお、指定調査機関とは、土壌汚染状況調査の信頼性を確保するために、法第3条第1項に基づき、技術的能力を有する調査業者をその申請により環境大臣が土壌汚染対策法第31条の各号に対して適合していると認め、指定した調査機関である。

### 2.4 参考法規等

本調査は、下記の仕様書、規格、要領等に従って実施した。

・「土壌汚染対策法」（平成14年5月29日法律第53号）
　以下、「法」という
・「土壌汚染対策法施行令」（平成14年11月13日 政令第336号）

・「土壌汚染対策法施行規則」（平成 14 年 12 月 26 日 環境省令第 29 号）
以下、「法施行規則」という
・「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(改訂第 3.1 版)」
（令和 4 年 8 月　環境省 水・大気環境局 土壌環境課）
以下、「ガイドライン」という
・「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成 15 年 10 月 1 日条例第 7 号）




| | |
|---|---|
| 地図名 | 1/2.5万地形図　岡崎 |
| 発行所 | 国土地理院 |
| 年月日 | 平成29年（2017年）　調製 |

対象地

N

図 2.1-1　対象地案内図

## 3. 施工方法

### 3.1 試料採取等対象物質

単位区画ごとに、表層土壌で基準不適合が確認された項目を試料採取等対象物質とした（表 3.1-1 参照）。

表 3.1-1　単位区画ごとの試料採取等対象物質

| | 土壌試料 | 地下水試料 |
|---|---|---|
| A1-1 区画 | 水銀及びその化合物（土壌溶出量） | 水銀及びその化合物 |
| | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 鉛及びその化合物 |
| A1-4 区画 | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 鉛及びその化合物 |

### 3.2 試料採取等地点

試料採取等地点を図 3.2-1 に示す。表層土壌の調査で試料採取等を行った地点の近傍とした。

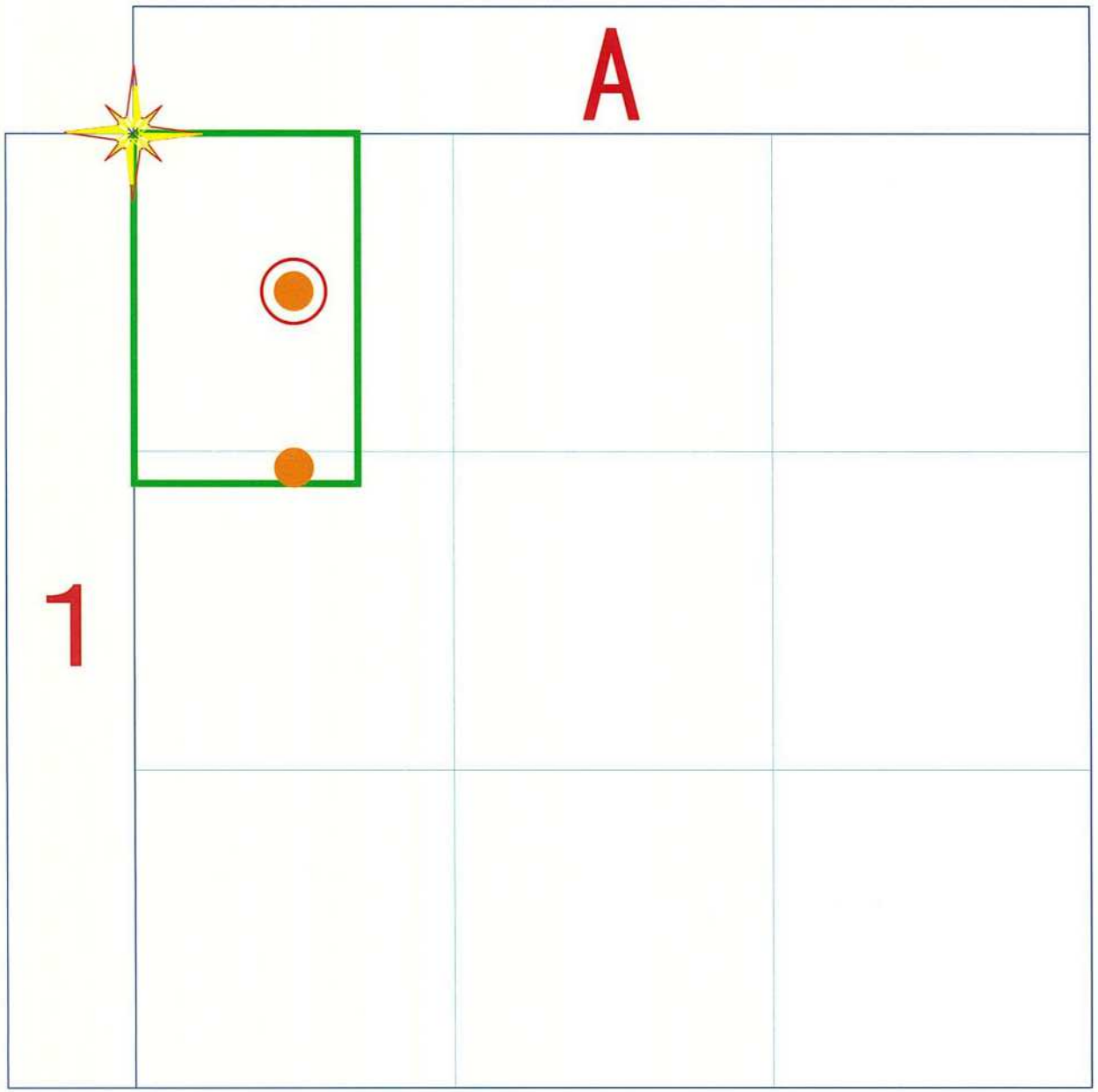



図3.2-1

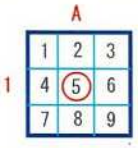
試料採取等地点

対象地

起点

※ 単位区画の名称は右図の通りとする

: A1-5




30m格子線

10m格子線

単位区画の統合

( ) 内は統合単位区画の面積(㎡)

水銀・鉛対象地点

鉛対象地点


SCALE 1/200 (A4)

## 3.3 土壌試料採取等方法

### 3.3.1 ボーリングから土壌試料の検液作成まで

ガイドラインの Appendix-7、平成 15 年 3 月 6 日環境省告示第 17 号、18 号で定める方法に基づき、試料採取及び分析を実施した。

10m までに第一帯水層の底部が確認されたため、自走式ボーリングマシンを用いて、土壌掘削時にコアを全て採取するオールコア方式により第一帯水層の底部下の難透水層が 0.5m 以上確認されるまでボーリングを行い、1.0m 以深 1.0m ごとと第一帯水層底部について土壌試料を分取し、分取した全試料について検液作成を行った（図 3.3.1-1 参照）。

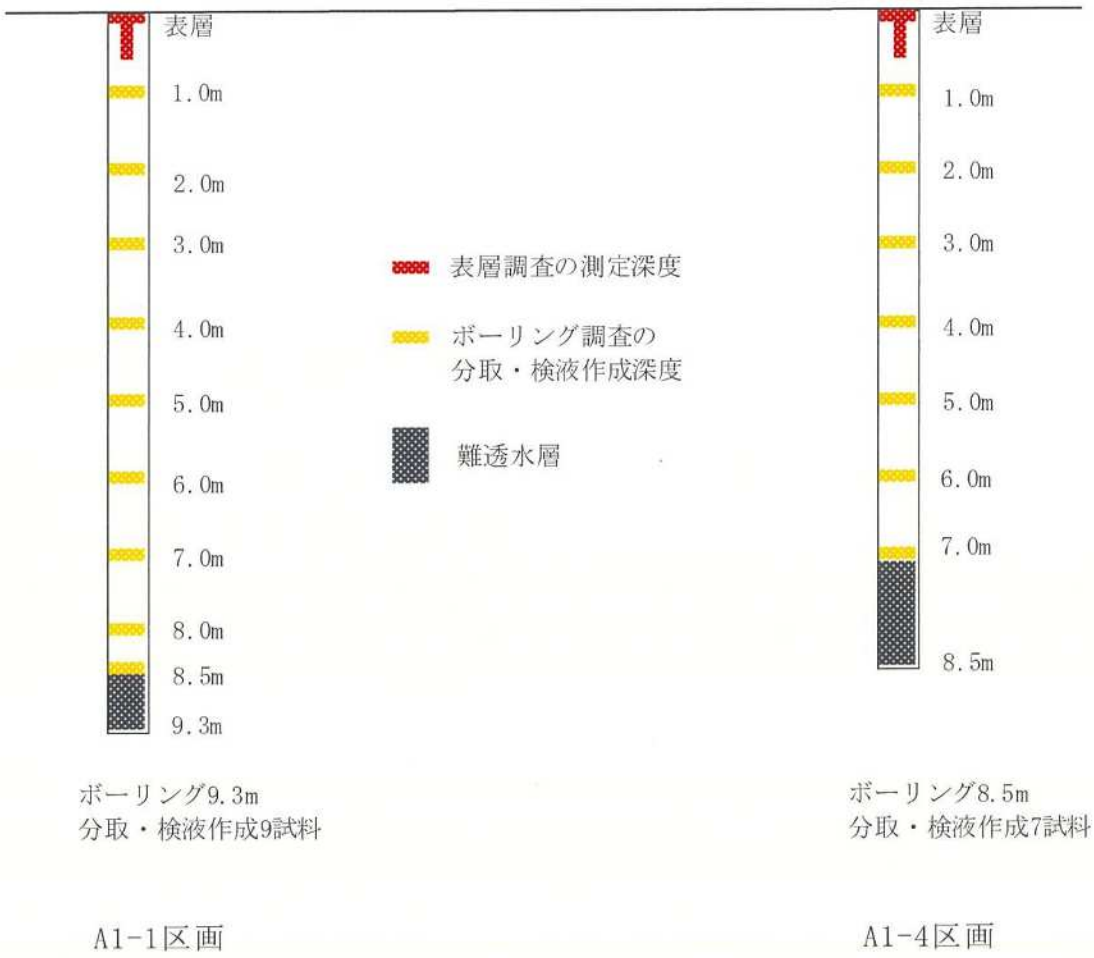



図 3.3.1-1　ボーリングと土壌試料の検液作成

### 3.3.2 土壌試料の特定有害物質の測定

作成した検液を用いて、2 深度連続して基準適合が確認されるまで順次測定を行うこととした（最初は 1.0m と 2.0m と分析 → 2 深度連続の基準適合が確認されなければ、3.0m 以深を追加測定）。

実施した結果、2 区画とも 1.0m と 2.0 が基準適合であったため、3.0m 以深の追加測定は行わなかった（表 3.3.2-1 参照）。

表 3.3.2-1 特定有害物質を測定した土壌試料

| | 土壌試料 | 測定深度 |
|---|---|---|
| A1-1 区画 | 水銀及びその化合物（土壌溶出量） | 1.0m、2.0m |
| | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 1.0m、2.0m |
| A1-4 区画 | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 1.0m、2.0m |

## 3.4 地下水試料採取等方法

### 3.4.1 観測井設置

ボーリングした 2 区画でボーリング終了後の裸孔に井戸材（PVC 製 φ50mm）を差し込み、井戸材と孔壁の間には珪砂もしくはベントナイトペレットを充填し観測井戸を設置した（図 3.4.1-1 参照）

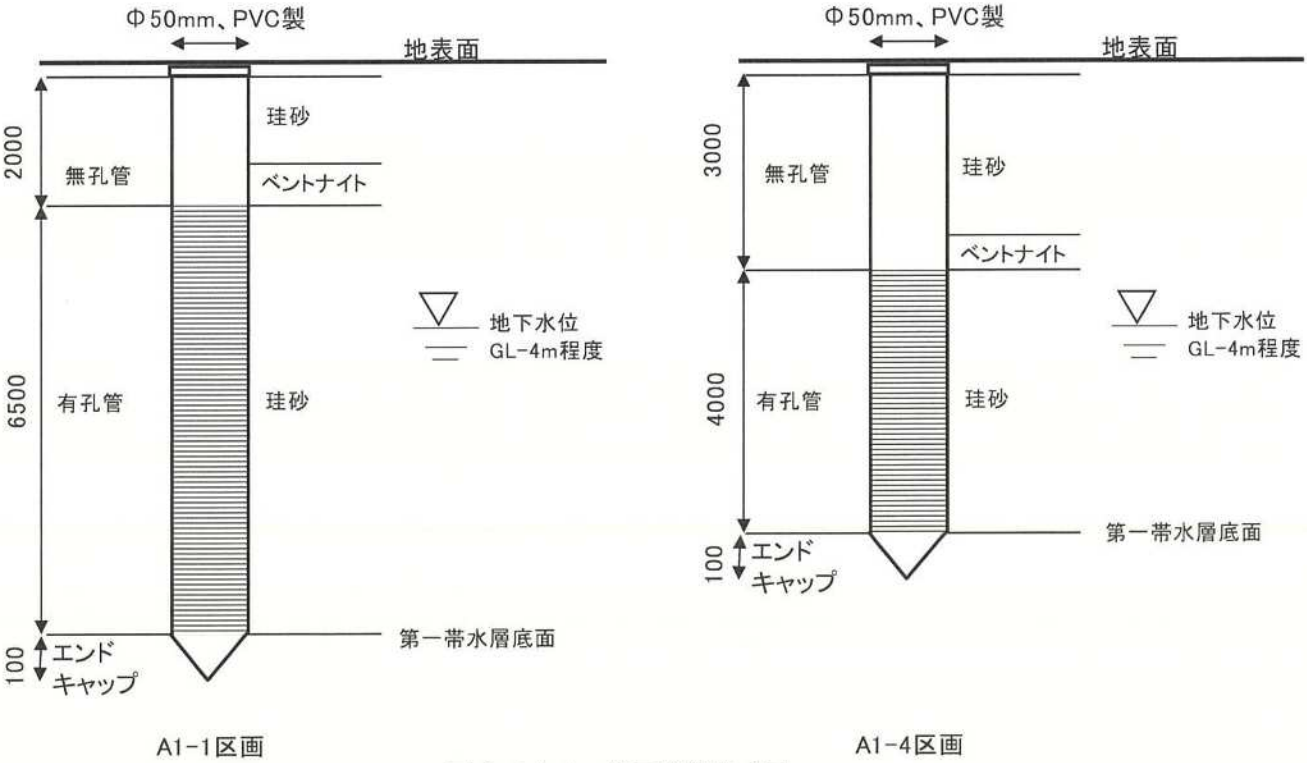



図 3.4.1-1 井戸構造模式図

### 3.4.2 観測井戸設置後の地下水調査

観測井戸の設置直翌日に、ガイドライン Appendix-6.「地下水に含まれる試料採取等対象物質の量の測定方法」記載の内容に準拠した方法で地下水調査を実施した。具体的には以下の手順で行った。

①地下水位を測定し、井戸内滞水量を計算した。

②水中ポンプにより井戸内の滞留水の 3 倍量以上をパージし、水温等が一定になったことを確認した。

③ベーラーを用いて地下水試料を採取した。

④採取した地下水試料について、試料を 10 分から 30 分程度静置した後の上澄み液を孔径 0.45 μm のメンブランフィルターでろ過してろ液をとり、これを検液として測定を行った。

地下水試料採取直前の地下水位測定結果を表 3.4.2-1 に示す。

表 3.4.2-1　地下水試料採水直前の地下水位測定結果
（測定日時：2024 年 2 月 28 日 9 時 20 分）

| | 孔口の高さ (KBM±m) | 管天の高さ (KBM±m) | 地下水位 (管天±m) | 地下水位 (KBM±m) |
|---|---|---|---|---|
| A1-1 | -0.38 | -0.42 | -3.92 | -4.34 |
| A1-4 | -0.19 | -0.27 | -4.36 | -4.63 |

## 3.5 特定有害物質の測定方法及び評価基準

### 3.5.1 測定方法

(1)土壌溶出量調査

「土壌汚染対策法施行規則第六条第三項第四号の環境大臣が定める土壌溶出量調査に係る測定方法」(平成 15 年環境省告示第 18 号)に基づき土壌溶出量調査を実施した。

(2)地下水調査

「地下水に含まれる試料採取等対象物質の量の測定方法を定める件」(平成15年環境省告示第17号)に基づき地下水調査を実施した。

### 3.5.2 評価基準

法施行規則に定める汚染状態に関する基準との比較により、土壌試料ごとの汚染の有無、地下水汚染の有無を確認した。

有害物質の種類と評価基準は表 3.5.2-1 に示すとおりである。

表 3.5.2-1　土壌汚染に関する基準（特定有害物質の種類と評価基準）

| 分類 | | 項目 | 土壌ガス調査における土壌汚染の可能性があるとされる濃度 | 汚染状態に関する基準 | | 地下水基準*3 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 土壌溶出量基準*1 | 土壌含有量基準*2 | |
| 特定有害物質（土壌汚染対策法） | 第一種特定有害物質 | クロロエチレン | 0.1 volppm以上 | 0.002 mg/L以下 | － | 0.002 mg/L以下 |
| | | 四塩化炭素 | 0.1 volppm以上 | 0.002 mg/L以下 | － | 0.002 mg/L以下 |
| | | 1,2-ジクロロエタン | 0.1 volppm以上 | 0.004 mg/L以下 | － | 0.004 mg/L以下 |
| | | 1,1-ジクロロエチレン | 0.1 volppm以上 | 0.1 mg/L以下 | － | 0.1 mg/L以下 |
| | | 1,2-ジクロロエチレン | 0.1 volppm以上 | 0.04 mg/L以下 | － | 0.04 mg/L以下 |
| | | 1,3-ジクロロプロペン | 0.1 volppm以上 | 0.002 mg/L以下 | － | 0.002 mg/L以下 |
| | | ジクロロメタン | 0.1 volppm以上 | 0.02 mg/L以下 | － | 0.02 mg/L以下 |
| | | テトラクロロエチレン | 0.1 volppm以上 | 0.01 mg/L以下 | － | 0.01 mg/L以下 |
| | | 1,1,1-トリクロロエタン | 0.1 volppm以上 | 1 mg/L以下 | － | 1 mg/L以下 |
| | | 1,1,2-トリクロロエタン | 0.1 volppm以上 | 0.006 mg/L以下 | － | 0.006 mg/L以下 |
| | | トリクロロエチレン | 0.1 volppm以上 | 0.01 mg/L以下 | － | 0.01 mg/L以下 |
| | | ベンゼン | 0.05volppm以上 | 0.01 mg/L以下 | － | 0.01 mg/L以下 |
| | 第二種特定有害物質 | カドミウム及びその化合物 | － | 0.003 mg/L以下 | 45 mg/kg以下 | 0.003 mg/L以下 |
| | | 六価クロム化合物 | － | 0.05 mg/L以下 | 250 mg/kg以下 | 0.05 mg/L以下 |
| | | シアン化合物 | － | 検出されないこと | 50 mg/kg以下 | 検出されないこと |
| | | 水銀及びその化合物 | － | 0.0005 mg/L以下 | 15 mg/kg以下 | 0.0005 mg/L以下 |
| | | アルキル水銀 | － | 検出されないこと | － | 検出されないこと |
| | | セレン及びその化合物 | － | 0.01 mg/L以下 | 150 mg/kg以下 | 0.01 mg/L以下 |
| | | 鉛及びその化合物 | － | 0.01 mg/L以下 | 150 mg/kg以下 | 0.01 mg/L以下 |
| | | 砒素及びその化合物 | － | 0.01 mg/L以下 | 150 mg/kg以下 | 0.01 mg/L以下 |
| | | ふっ素及びその化合物 | － | 0.8 mg/L以下 | 4000 mg/kg以下 | 0.8 mg/L以下 |
| | | ほう素及びその化合物 | － | 1 mg/L以下 | 4000 mg/kg以下 | 1 mg/L以下 |
| | 第三種特定有害物質 | シマジン | － | 0.003 mg/L以下 | － | 0.003 mg/L以下 |
| | | チオベンカルブ | － | 0.02 mg/L以下 | － | 0.02 mg/L以下 |
| | | チウラム | － | 0.006 mg/L以下 | － | 0.006 mg/L以下 |
| | | ポリ塩化ビフェニル | － | 検出されないこと | － | 検出されないこと |
| | | 有機りん化合物 | － | 検出されないこと | － | 検出されないこと |

*1：「土壌汚染対策法施行規則」　別表第 4 記載

*2：「土壌汚染対策法施行規則」　別表第 5 記載　　：本調査の対象

*3：「土壌汚染対策法施行規則」　別表第 2 記載

## 4. 特定有害物質の測定結果

土壌・地下水の特定有害物質の測定結果を表 4.-1～表 4.-2 と図 4.-1 に示す（既往調査の結果も併記）。

A1-1、A1-4 区画とも、1m と 2m が連続して基準適合であることが確認された。また、地下水も基準適合であることが確認された。

表 4.-1　土壌・地下水の特定有害物質の測定結果（A1-1 区画）

| A1-1 | | | |
|---|---|---|---|
| 試料 | 土壌表面からの試料採取深度(m) | 水銀及びその化合物 | 鉛及びその化合物 |
| | | 溶出量または地下水(mg/L) | 溶出量または地下水(mg/L) |
| 土壌 | 0～0.5 | 0.0006 | 0.069 |
| | 1.0 | ＜ 0.0005 | 0.006 |
| | 2.0 | ＜ 0.0005 | ＜ 0.001 |
| 地下水 | － | ＜ 0.0005 | ＜ 0.001 |
| 基準 | | 0.0005以下 | 0.01以下 |

注1）0.0～0.5mの土壌は既往調査の結果である。

注2）　　は基準不適合を示す。

表 4.-2　土壌・地下水の特定有害物質の測定結果（A1-4 区画）

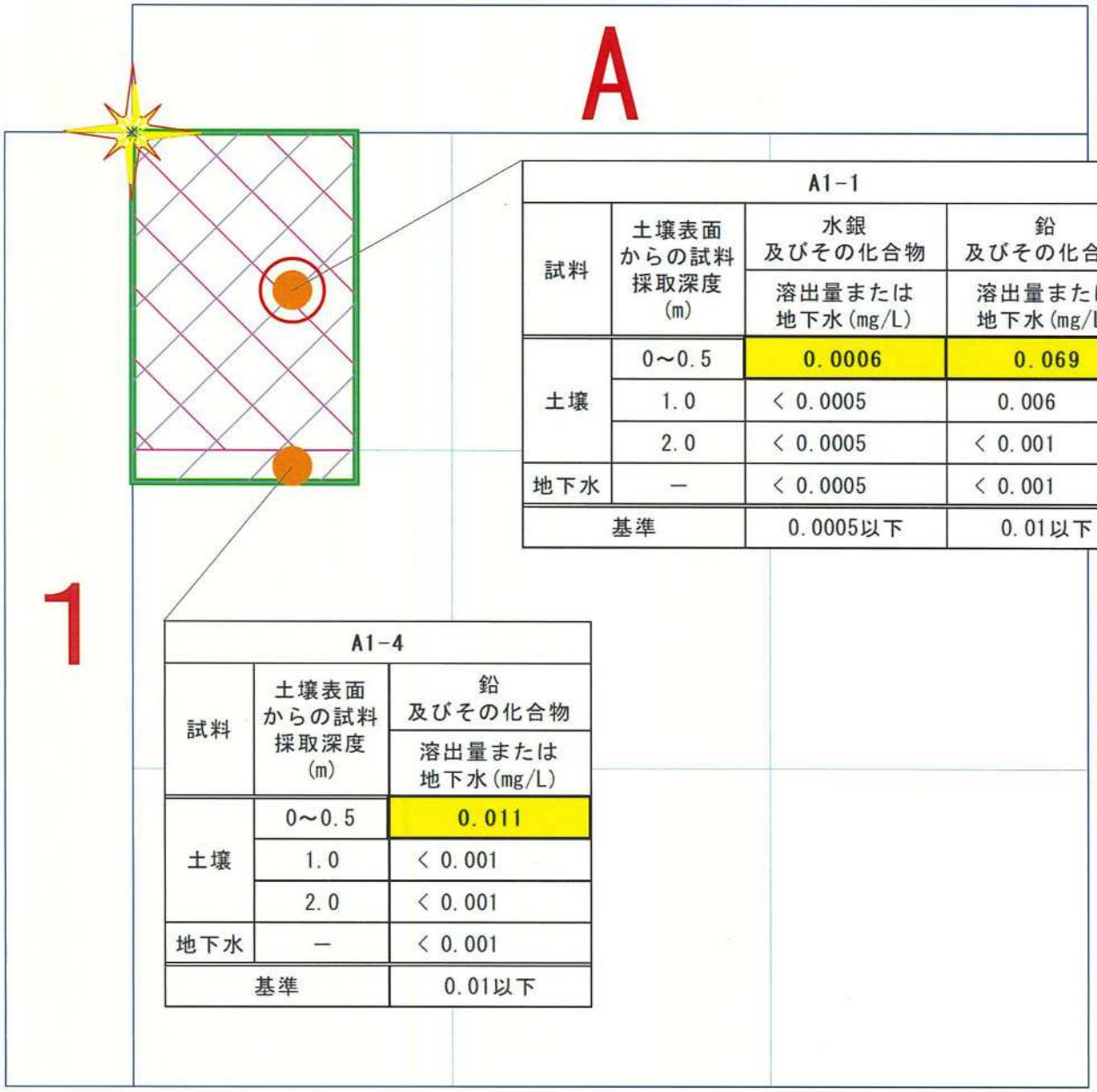
| A1-4 | | |
|---|---|---|
| 試料 | 土壌表面からの試料採取深度(m) | 鉛及びその化合物 |
| | | 溶出量または地下水(mg/L) |
| 土壌 | 0～0.5 | 0.011 |
| | 1.0 | ＜ 0.001 |
| | 2.0 | ＜ 0.001 |
| 地下水 | － | ＜ 0.001 |
| 基準 | | 0.01以下 |

注1）0.0～0.5mの土壌は既往調査の結果である。

注2）　　は基準不適合を示す。

図4.-1

土壌・地下水の
特定有害物質の測定結果



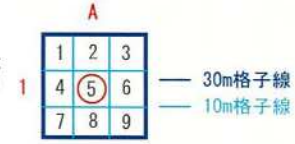

| A1-1 | | | |
|---|---|---|---|
| 試料 | 土壌表面からの試料採取深度(m) | 水銀及びその化合物 | 鉛及びその化合物 |
| | | 溶出量または地下水(mg/L) | 溶出量または地下水(mg/L) |
| 土壌 | 0～0.5 | 0.0006 | 0.069 |
| | 1.0 | < 0.0005 | 0.006 |
| | 2.0 | < 0.0005 | < 0.001 |
| 地下水 | ― | < 0.0005 | < 0.001 |
| 基準 | | 0.0005以下 | 0.01以下 |

| A1-4 | | |
|---|---|---|
| 試料 | 土壌表面からの試料採取深度(m) | 鉛及びその化合物 |
| | | 溶出量または地下水(mg/L) |
| 土壌 | 0～0.5 | 0.011 |
| | 1.0 | < 0.001 |
| | 2.0 | < 0.001 |
| 地下水 | ― | < 0.001 |
| 基準 | | 0.01以下 |

対象地

起点

※ 単位区画の名称は右図の通りとする




○ : A1-5

単位区画の統合

( ) 内は統合単位区画の面積(㎡)

水銀・鉛対象地点

鉛対象地点

【基準不適合結果】

基準不適合の単位区画
水銀及びその化合物（土壌溶出量）

基準不適合の単位区画
鉛及びその化合物（土壌溶出量）

は基準不適合の結果を示す


SCALE 1/200 (A4)

## 5. 土壌汚染の深さの評価

土壌汚染の深さはガイドラインに基づき評価した。土壌汚染の深さの評価例を図 5.-1 に示す。

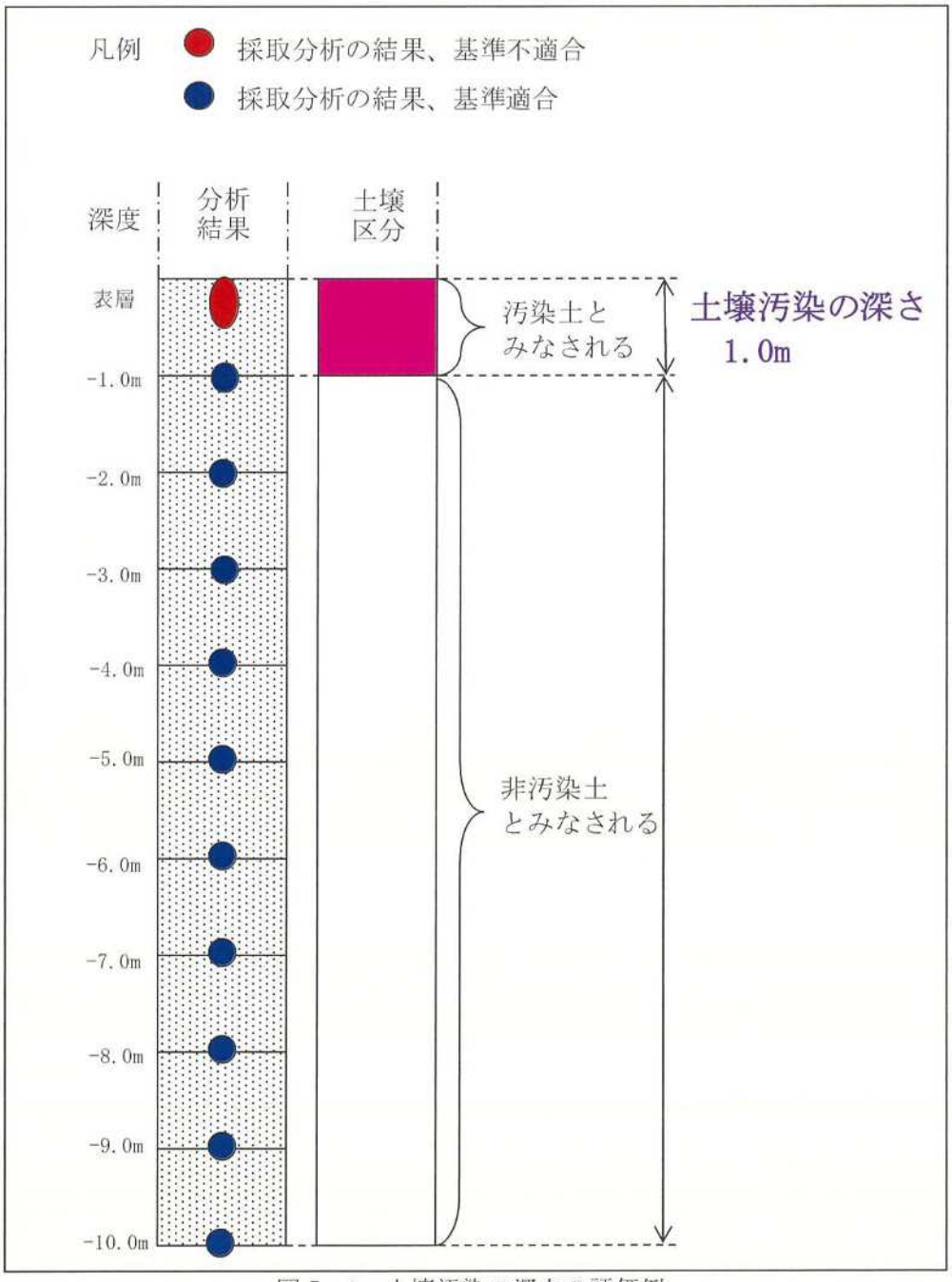



図 5.-1　土壌汚染の深さの評価例

## 6. まとめ

譲渡公営住宅元荒居荘内の住宅の跡地のうち、かつて印刷所が営まれていた土地では、既往調査により、調査した2単位区画とも表層土壌が基準不適合という結果が得られていた。

今回、深度方向の汚染範囲の確定、ならびに、地下水汚染の有無を確認することを目的としてボーリング調査等を行った。

その結果、基準不適合の状況は表6.-1のとおり、A1-1区画、A1-4区画とも土壌汚染の深さは0～1mであり、汚染土壌量は77㎥、地下水は汚染なしであった。

**表6.-1　基準不適合の状況**

| 30m格子 | 単位区画 | 面積 | 基準不適合物質と最大濃度（深度） | | 土壌汚染の深さ | 汚染土壌量 | 地下水汚染の有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A1 | A1-1 | 70㎡ | 水銀及びその化合物（土壌溶出量） | 0.0006m/L（0.0～0.5m） | 0.0～1.0m | 70㎥ | 汚染なし |
| | | | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 0.069m/L（0.0～0.5m） | | | |
| | A1-4 | 7㎡ | 鉛及びその化合物（土壌溶出量） | 0.0011m/L（0.0～0.5m） | 0.0～1.0m | 7㎥ | 汚染なし |
| 計 | 4区画 | 77㎡ | － | － | － | 77㎥ | － |

注）水銀及びその化合物（土壌溶出量）の基準は0.0005mg/L以下、鉛及びその化合物（土壌溶出量）の基準は0.01mg/L以下である。

# 巻末資料

# 計量証明書

# 計　量　証　明　書

発行番号　I-240200252 - 0001

発行日　2024年3月7日

岡崎市長　様

株式会社
ER&S 環境総合リサーチ
〒619－0237　京都府相楽郡精華町光台二丁目3番9
出張所
〒444－0012　愛知県岡崎市栄町４丁目１番地
電話　(0564)21-0062
計量証明事業　愛知県知事登録（濃度）第２７９号

計量証明事業者

計量管理者
(環境計量士(濃度) 第9065号)　山田　晋佑

2024年2月27日受付の試料について、計量結果を下記のとおり証明致します。

件名：　譲渡公営住宅元荒居荘　土壌汚染詳細調査業務

| 計量の対象 | 単位 | 計量の方法 |
|---|---|---|
| 水銀及びその化合物 | mg/L | 昭和46年環境庁告示第59号付表2 |

| 試料名 | 計量の結果 | 採取者 | 採取日時 | 天候 | 気温 | 水温 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A1-1（深度 1.0m） | 0.0005未満 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| A1-1（深度 2.0m） | 0.0005未満 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| | 以下余白 | | | | | |

※溶出試験：土壌溶出量調査に係る測定方法（平成１５年環境省告示第１８号付表）

# 計　量　証　明　書

発行番号　I-240200252 - 0002

発行日　2024年3月7日

岡崎市長　様

株式会社
ER&S 環境総合リサーチ
〒619－0237　京都府相楽郡精華町光台二丁目3番9
出張所
〒444－0012　愛知県岡崎市朱町4丁目1番地
電話　(0564)21-0062
計量証明事業　愛知県知事登録（濃度）第279号

2024年2月27日受付の試料について、計量結果を下記のとおり証明致します。

計量証明事業者

計量管理者
(環境計量士(濃度) 第9065号)　山田　晋佑

件名：　譲渡公営住宅元荒居荘　土壌汚染詳細調査業務

| 計量の対象 | 単位 | 計量の方法 |
|---|---|---|
| 鉛及びその化合物 | mg/L | JIS K 0102 54.4(2019年) |

| 試料名 | 計量の結果 | 採取者 | 採取日時 | 天候 | 気温 | 水温 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A1-1（深度 1.0m） | 0.006 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| A1-1（深度 2.0m） | 0.001未満 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| | 以下余白 | | | | | |

※溶出試験：土壌溶出量調査に係る測定方法（平成１５年環境省告示第１８号付表）

# 計　量　証　明　書

発行番号　I-240200253 - 0001

発行日　2024年3月7日

岡崎市長　様

株式会社
ER&S 環境総合リサーチ
〒619－0237　京都府相楽郡精華町光台二丁目3番9
中部事業所
〒444－0012　愛知県岡崎市宝町４丁目１番地
電話　(0564)21-0062
計量証明事業　愛知県知事登録（濃度）第２７９号

2024年2月27日受付の試料について、計量結果を下記のとおり証明致します。

計量管理者
(環境計量士(濃度) 第9065号)　山田　晋佑

件名：　譲渡公営住宅元荒居荘　土壌汚染詳細調査業務

| 計量の対象 | 単位 | 計量の方法 |
|---|---|---|
| 鉛及びその化合物 | mg/L | JIS K 0102 54.4(2019年) |

| 試料名 | 計量の結果 | 採取者 | 採取日時 | 天候 | 気温 | 水温 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A1-4（深度 1.0m） | 0.001未満 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| A1-4（深度 2.0m） | 0.001未満 | 田中　健 | 2024年2月27日 | 晴 | - | - |
| | 以下余白 | | | | | |

※溶出試験：土壌溶出量調査に係る測定方法（平成１５年環境省告示第１８号付表）

# 計　量　証　明　書

発行番号　I-240200254 - 0001

発行日　2024年3月6日

岡崎市長　様

株式会社
ER&S 環境総合リサーチ
〒619－0237　京都府相楽郡精華町光台二丁目3番9
岡崎事業所
〒444－0012　愛知県岡崎市宝町４丁目１番地
電話 (0564)21-0062
計量証明事業　愛知県知事登録（濃度）第２７９号

計量証明事業者

計量管理者
(環境計量士(濃度) 第9065号)　山田　晋佑

2024年2月28日受付の試料について、計量結果を下記のとおり証明致します。

件名：　譲渡公営住宅元荒居荘　土壌汚染詳細調査業務

| 試料名 | | 採取者 | 採取日時 | 天候 | 気温 | 水温 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| No. 1 | A1-1（地下水） | 田中　健 | 2024年2月28日 09時30分 | 晴 | 8.0℃ | 17.5℃ |
| No. 2 | A1-4（地下水） | 田中　健 | 2024年2月28日 09時40分 | 晴 | 8.0℃ | 17.0℃ |

試料状況：[No. 1]　外観色:灰茶色 外観色濃淡:中 外観濁り:中 外観臭:無臭
[No. 2]　外観色:灰茶色 外観色濃淡:中 外観濁り:中 外観臭:無臭

| 計量の対象 | 単位 | 計量の結果 No. 1 | 計量の結果 No. 2 | 計量の方法 |
|---|---|---|---|---|
| 水銀及びその化合物 | mg/L | 0.0005未満 | － | 昭和46年環境庁告示第59号付表2 |
| 鉛及びその化合物 | mg/L | 0.001未満 | 0.001未満 | JIS K 0102 54.4(2019年) |
| | | 以下余白 | | |

『土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドラインAppendix-7 地下水試料採取方法』に基づき、第二種及び第三種特定有害物質についてはろ過後に分析に供しました。

# 柱状図

# ボーリング柱状図

調　査　名　譲渡公営住宅　土壌汚染調査（ボーリング調査）業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ボーリング名 | A1-1 | 調査位置 | 愛知県岡崎市井田町字荒居23番6 | | | 北緯 | |
| 発注機関 | | | | 調査期間 | 2024年 2月 27日 ～ 2024年 2月 27日 | 東経 | |
| 調査業者名 | 株式会社 環境総合リサーチ 電話（0774-41-0200） | 主任技師 | 田中 健 | 現場代理人 | | コア鑑定者 | 矢追裕之 | ボーリング責任者 | 川嶋龍聖 |
| 孔口標高 | KBM -0.376m | 角度 | 180° 上 90° 下 0° | 方向 | 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 | 地盤勾配 | 水平0° 鉛直 90° | 使用機種 | 試錐機 EP-26 | ハンマー落下用具 | |
| 総掘進長 | 9.30m | | | | | | | | エンジン | ポンプ | |

| 標尺 (m) | 標高 (m) | 層厚 (m) | 深度 (m) | 柱状図 | 土質区分 | 色調 | 相対密度 | 相対稠度 | 記事 | 孔内水位(m)／測定月日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | 礫混りシルト質砂 | 暗褐～茶褐 | | | 粗～中砂主体<br>粘性の低いシルト全体に混入<br>φ2～10mmの角～亜角礫混入<br>maxφ20mm程度 | |
| 2 | -2.78 | 2.40 | 2.40 | | | | | | | |
| 3 | -3.58 | 0.80 | 3.20 | | 礫・シルト混り砂 | 黄褐 | | | 粗砂主体<br>粘性低いシルト全体に混入<br>φ2～4mmの角～亜角礫混入<br>含水中 | 2/27 3.20 |
| 4 | | | | | 砂 | 淡灰～黄褐～淡灰 | | | 粗～中砂主体 | |
| 5 | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | |
| 8 | -8.88 | 5.30 | 8.50 | | | | | | | |
| 9 | -9.68 | 0.80 | 9.30 | | 風化岩 | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | |

| 標準貫入試験 深度 (m) | 10cmごとの打撃回数 0～10 | 10～20 | 20～30 | 打撃回数／貫入量 (cm) | N値 0 10 20 30 40 50 60 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

| 原位置試験 深度 (m) | 試験名および結果 | 試料採取 深度 (m) | 試料番号 | 採取方法 | 室内試験（ ） | 掘進月日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 2/27 |

# ボーリング柱状図

調　査　名　譲渡公営住宅　土壌汚染調査（ボーリング調査）業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ボーリング名 | A1-4 | 調査位置 | 愛知県岡崎市井田町字荒居23番6 | | | 北緯 | |
| 発注機関 | | | | 調査期間 | 2024年 2月 27日 ～ 2024年 2月 27日 | 東経 | |
| 調査業者名 | 株式会社　環境総合リサーチ<br>電話（0774-41-0200） | 主任技師 | 田中　健 | 現場代理人 | | コア鑑定者 | 矢追裕之 | ボーリング責任者 | 川嶋龍聖 |
| 孔口標高 | KBM -0.186m | 角度 | 180° 上 90° 下 0° | 方向 | 270° 西 北 0° 90° 東 180° 南 | 地盤勾配 | 鉛直 水平0° 90° | 使用機種 | 試錐機 | ハンマー落下用具 | |
| 総掘進長 | 8.50m | | | | | | | | エンジン | ポンプ | |

| 標尺 (m) | 標高 (m) | 層厚 (m) | 深度 (m) | 柱状図 | 土質区分 | 色調 | 相対密度 | 相対稠度 | 記事 | 孔内水位(m)／測定月日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | -1.19 | 1.00 | 1.00 | | 礫混りシルト質砂 | 茶褐 | | | 中～細砂主体<br>粘性の低いシルト全体に混入<br>φ2～5mmの角～亜角礫少量混入 | |
| 2<br>3 | -4.09 | 2.90 | 3.90 | | 礫・シルト混り砂 | 黄褐 | | | 粗砂主体<br>粘性の低いシルト少量混入<br>φ2～5mmの角～亜角礫混入<br>max φ10mm程度 | |
| 4<br>5<br>6<br>7 | -7.19 | 3.10 | 7.00 | | 砂 | 淡灰～黄褐～淡灰 | | | 粗～細の混成砂主体<br>含水中 | 2/27 4.57 |
| 8 | -8.69 | 1.50 | 8.50 | | 風化岩 | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | |

| 標準貫入試験 深度(m) | 10cmごとの打撃回数 0～10 | 10～20 | 20～30 | 打撃回数／貫入量(cm) | N値 0 10 20 30 40 50 60 | 原位置試験 深度(m) | 試験名および結果 | 試料採取 深度(m) | 試料番号 | 採取方法 | 室内試験（ ） | 掘進月日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 2/27 |